

誌上行学講習会

高佐日煌上人

ま勉な為しききも快に五は時如すいのてたつと  
 す強けに、出も求声智か分た間何るつ為も時の思声  
 。しれはあしのめ聞行くもめ半なわたに単の研え聞  
 たば常らてで探心心讀読しまるけ類なな喜究ば心の  
 いなにゆか、究のとみめてでかでのるるびを誰で天  
 とりそるら今す声申終ない讀たはもよ小等や  
 いまれ知す日る聞しえいためいあのう説のりも味  
 うせを識での心心また筈だる本りでな類心遂  
 心ん学もによではすとでけよとまな哲のでげえは快  
 を。び深何うあ究。いあれういせけ学こあたるん  
 究そ求く千人ます心。うりばにえんれ上とり喜んで  
 知うめな年類す心。時ま解などがばのでまび、あ心。  
 行いよつとが。喜。まま、私りとあ。一りこれ  
 心ううてい、文学こ。びそし本はまかり一冊ますは  
 とよすしてい、文学こ。のれがた当訓せ、ま冊の本。  
 言うする時のはは。心ら、。に練ん宗せの本。は  
 の積追おり時間世果ど。のも普楽に。教ん本を例味  
 で極求まを界てこ。こ本の通しよ自書。と読えあ  
 あ的心す経をしま。これをののくつ慢と人い破ばお  
 りにが。過築なで。それをと十人三てをか生つし一う

この漢かのす上少 るえも 心学  
 とでのま空かけし声か教の声理問声  
 にあ境え観らる教聞も育を聞 中に我  
 致り地たの。と課心しす教心 縁覚心は智行三昧心。これ  
 しまに人思やかがのれるえの。心は  
 ます。入を想がえ進仏ま。る境地ではあります。知  
 す。つ阿がてつん陀せ学校の教師（先生）がこれに當与  
 いた羅出原てで心ん。程滅がことになります。これ  
 づ時漢て始混かは灰身滅智心。申智、れこなり。今は  
 れのと參仏同ら申し上げ。上との身にそ申もう  
 詳心申り教を学ことします。これは  
 細をします。ぶと申智、れこなり。今は  
 は灰ます。ぶと申智、れこなり。今は  
 後身す。ぶと申智、れこなり。今は  
 申智、れこなり。今は  
 し心こをろ。今は  
 上と申智、れこなり。今は  
 げい阿に仏う。今は  
 う羅つ教でし

以下次号